

(調査様式1)

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成24年1月10日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4673100105号
法人名	有限会社 タンポポ福祉館
事業所名	グループホーム タンポポ福祉館 (すみれ棟)
所在地	鹿児島県鹿児島市春山町1855番7 (電話) 099-278-7110
自己評価作成日	平成24年1月10日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

・認知症を理解し、支援していけるように必要な堅守には参加を促し、職員の質の向上に努め、利用者が穏やかな生活が送れるよう日々努力している。すべての職員が把握できるよう、掲示や資料など確認している。  
・緑豊かな自然と芝生の広場や畑があり、四季折々の季節を感じながら穏やかに生活している。

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成24年1月31日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点 (評価機関記入)】

当ホームは幹線道路沿いに位置しているが、同一敷地内に広い芝生と畑を有しており、利用者は芝生での散策や旬野菜の収穫を楽しみながら生活している。管理者はこれからも安らぎを感じながら、自立した、普通の生活を自然に過してもらえるホームであり続けたいと願っている。要所に手すりを設置し、リビングから全居室が一望できる設計になっており、安全、かつ自立した生活が送れるよう工夫している。職員全員で話し合い、現状に合ったわかりやすい文言の理念を作成、理念を念頭に、日々ケアに取り組んでいる。理念を利用者も理解し、ホーム生活の中で自分にできる事を見つけ、雑巾や野菜作り、料理、台拭き、お茶入れ、配膳、下膳などの役割を遂行しながら生きがいを持って穏やかに暮らしている。幹線道路沿いに面している為、職員は利用者の安全管理を徹底し、目配り、気配り、手配りのケアに取り組んでいる。職員間でのコミュニケーションを密にし、情報を共有しながら安全第一の支援に徹している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	ホール内に理念を掲示し、日々のケアの中で意識し取り組んでいる。新任教員には理解を深められるよう管理者が指導を行っている。	理念は目につく数ヶ所に掲示され、利用者も唱和することがある。職員は理念を共有し、日々のケアにつなげている。ミーティングや申し送り時には理念がケアに反映されているか振り返りの話し合いを持っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	自治会には未加入であるが、買い物、美容室などで地域との交流を日常的に行っている。運営推進会議の中で地域行事などの情報を得て交流している。	管理者、職員が地元出身で日常的に買い物や美容院など利用している。老人会、子供会、小・中・高校生の職場体験、商工会婦人部によるボランティアの受け入れの他、ホーム主催行事には、地域住民の参加もある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	老人会、子ども会、小学生・中学生の職場体験、ボランティアの受入を通じ、地域貢献している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	テーマをひとつ決めて、そのテーマに沿って運営推進会議で協議し、サービスの向上に活かしていこうと新しい取り組みに方向性を確立した。	地域民生委員、包括支援センター職員、家族代表参加のもと、定期的開催されている。ホームの現状・行事報告、地域の情報、行政報告などや課題を提示し、参加者の意見を貰いホーム運営、サービス向上に活かす方向性を作り上げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>入所者の関わりについて、疑問点、相談は市の担当者に指導・助言を得ている。</p>	<p>介護相談員の受け入れや市担当者の助言、指導を得たり、事業所の実情を報告したり、協力関係を築いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>交通量の多い堂とに面しているため玄関の施錠は職員が対応しているが、家族の同意を得、理解している。</p>	<p>毎月のミーティングで全員が拘束について学び、拘束の内容とその弊害を認識している。徘徊に対しては傾聴を重視し、家族の協力や見守りで支援している。幹線道路沿いにあり、安全の為に施錠しているが家族納得の上、抑圧感のない暮らしの支援を心がけている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修は全員参加し、該当する行為が見過ごされることがないように委員会を設置し、防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>必要な方には、支援できるように働きかけたい。研修等も機会があれば参加し、一人でも多くの職員が学ぶ機会がもてたら良い。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>管理者が家族と面談し、施設見学をされるとき、また契約を行う時「重要事項説明書」を説明し、理解・納得して頂いている。家族会でも説明している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>いつでも意見や要望、苦情等表出できるように意見箱の設置・苦情等は記録に残し、ミーティングで話し合う。入所者や家族の綿花維持、話しやすい雰囲気を作り対応している。</p>	<p>日常的に家族の面会時や、電話連絡時に話をし、意見や要望を聞いている。利用開始時は、話し合いの機会を多く持ち、ストレスのない生活がおくれるよう配慮している。年2回は家族参加の交流会を持ち、意見や要望を聞いてそれらを運営に反映させている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティングの場で意見や要望など管理者へ申出ている。内容は施設長へつなぎ対応。</p>	<p>各ユニット毎に会議を持って職員は意見や要望を出している。勤務時間、休みについてはできるだけ職員の希望に沿った体制がとれるよう努めている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>勤務表で勤務状況を把握し、急用・病気等あれば、管理者や他の職員で対応している。</p>		

鹿児島県 グループホームタンポポ福祉館 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者は個々の職員に必要と思われる研修について参加してもらっている。研修内容はミーティングで報告し、復命書に記録する。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>包括支援センターからの同業者による交流会が毎年1~2回あり、管理者・職員が出席し、勉強している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>管理者が面談を行い、施設見学をして頂く。場合によっては、他のサービス機関も紹介する。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族の要望・意見を充分聞き、信頼関係を築く努力をしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受け必要なサービスを必要な時に利用出来るよう、地域のケアマネと連携しながら対応に努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>日々の生活の中で得意とすることを引き出し、それを活かせる場を多く作る事で、良い関係を築いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>気になることや状況を毎月お便りでお知らせし、面会時には家族の希望や意見を伺う。ホームでの様子を見て頂いたり、お知らせして支え合う関係作りを行っている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>地区外からの入居者がほとんどで、外泊希望も少ないが、家族の面会時に、親族の集まりの機会などに外出を計画してもらえよう管理者から働きかけている。</p>	<p>地域出身の利用者は毎月、老人会に参加している。家族に呼びかけ、帰宅や墓参り、外食に出かけている。行きつけの美容院や買い物など外出支援し関係継続を図っている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入所者同士での声かけで、レク活動や、出来ない方への身の回りの手助け等をされ、お互い支え合っている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>転院等あれば病院へのお見舞いを実地している。退去時は、その後の状況をお便り等で支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の中で、入所者本人から希望等の把握に努めている。困難な場合は、本人の表情・しぐさ・生活歴等で考慮し家族と職員が連携し情報交換しながら検討している。	管理者は、職員に優しい声掛けとなじみの関係作りに気配りするよう指導している。会話の傾聴や行動・表情から本人の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報や入居者台帳等を参考に生活環境や生活歴を把握し、本人・家族・主治医・ケアマネからの情報収集にも努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴などの情報から、一人ひとりを把握し、理解するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3カ月に一回見直しを行い、変化があれば、本人・家族と話し合い介護計画を見直している。	利用者が、張りのある楽しい日常生活を営まれるよう定期的に地域の老人会に参加できるように計画したり、なじみの人や場との関係継続を大切にできる個別性を反映した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入所者の状態変化やケア記録を個別にし、情報を共有している。ケアプランを元に評価に取り組み計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズに対しては、スタッフと連携し、伝達を行い、柔軟な対応を心がけている。ミーティング等で再確認している。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の方々に苦情処理の第三者委員と推進委員になって頂いている。小・中学生の職場体験、老人会、商工会婦人部によるボランティア活動を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族による受診同行が原則である。やむを得ない場合や緊急時は支援している。訪問診療・緊急時の受け入れ先確保などを行い、適切に医療を受けられるよう配慮している。	家族の状況と受診病院によってはホームで支援する事もある。家族に居宅療養契約を結んでもらっている利用者もいる。看護師が健康管理を行い、適切に医療を受けられるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>各ユニットの看護職員へ報告し、協力病院と連携をとりながら健康管理・医療の支援を行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入居者の情報交換を医療機関と行い、見舞うようにしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>家族会議で、医療が必要になった場合の居宅療養管理指導やターミナルケアについてホームの方針を説明し、理解を得ている。協力医との連携があることで・チームケアが出来ている。</p>	<p>入居時、家族会議時に重度化、終末期についてホームの指針を口答で説明、了解を得ている。協力医療機関との連携が密にできていて、利用者の状況に応じてその都度、医師・家族が話し合いをもち、方針を共有、チームで支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>消防署を招き、意識レベル、心肺蘇生術、誤嚥による窒息の救急法を行っている。</p>		

鹿児島県 グループホームタンポポ福祉館 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の協力で、避難訓練・救急法の研修を行っている。近隣住民へは災害時の協力依頼の声かけを実施している。</p>	<p>毎月、あらゆる場面を想定した自主訓練を利用者も交えて実施している。年2回、避難訓練を行っている。近隣への声掛けも行っている。スプリンクラーは設置済みで備蓄もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者のプライドを傷つけないように穏やかな声かけを行っている。入室時のドアノック、個人情報取り扱い、守秘義務については、ミーティングで確認している。	管理者は職員に意識付けを図っている。職員は日常業務の中で互いに注意しあえる関係ができていて、利用者に応じた声掛けや対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人のあるがままを受け入れ強制せず、自分の意思決定出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所時の生活歴を家族や本人から情報を得て、それを活かしながら、一人ひとりの声に耳を傾け支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	洗面台に鏡とブラシを置いて、一人ひとり身だしなみ出来るようにしている。二か月に一回は希望で近くの美容室に出掛ける。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で収穫した野菜を使って食事の下ごしらえや準備、後片付けを一緒に行っている。メニューに入所者の希望や旬の野菜で行事食に取り入れ楽しんでいる。	利用者に調理法などのアドバイスをもらったり、できる事は手伝ってもらっている。ソーメン流し、物産館などにドライブし、外食も楽しんでいる。	

鹿児島県 グループホームタンポポ福祉館 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回食事量のチェックと一カ月に一回体重測定を行い、一人ひとりの食事、水分量を検討し合っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、流水で洗浄している。自立を図るためにも声かけし入所者にあつた支援を行っている。夜は義歯洗浄剤に浸して保存している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声かけ、指導、見守りを行っている。	必要に応じて排泄チェック表を作成、把握できるようにし、昼間は職員の細かな声掛け誘導でトイレでの排泄を支援している。自立している利用者には現状維持できるよう支援している。夜間だけのポータブルトイレ利用者もおり、安全に気配りしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事以外でも時間を決め十分な水分を摂ってもらったり、繊維質の多い食材をとり入れたりしている。排便カレンダーで数日なければ担当医に相談・指示もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入所者と話し合いを行い、順番を決めて入浴している。各ユニット入浴日が決まっているが、タイミングが合わない場合等は別ユニットで入浴できるようになっている。	基本的には1日おき、午後からの入浴である。入浴を嫌がる利用者には入浴剤で温泉気分を出したり、タイミングを見て声掛けをしたりし工夫している。足浴や部分清拭などでも対応している。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中になるだけ十分な活動を行い、就寝前の刺激を避け、良い睡眠が出来るよう支援している。布団の天日干しも行っている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用薬剤の一覧表を作成し、全職員が把握出来るようになっている。 。薬剤の変更があった場合など留意し観察を行っている。 飲み間違いのないように一人ひとり手渡しで確認しながら服用させている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その日のレク活動は、入所者の方で決めて行ったり、皆さんの意向を聞いて職員がすすめ楽しい時間を作っている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所での買い物の希望があれば出掛けられるようにしている。花見などの外出も設けている。菜園周辺は自由に散策可能である。	芝生の庭や畑までの散策、買物など日常的に支援している。初詣、季節の花見、みかん狩り、外食など出かける機会を作り支援している。家族に墓参りや、一時帰宅などの支援や協力ももっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族、本人の希望でお金を所持している方には、必要に応じ管理者で買い物をし、家族に報告している。金銭管理が解らず所持していない方が大半である。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>カウンターに電話を置いてあるため自由に利用出来るようになっている。投函や代筆は職員が行い、やりとりに規制は特別ない。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホールの天窓からの日差して暖かさ、明るさを大事にしている。季節に合わせたカレンダー作り、生活感や季節感を取り入れている。</p>	<p>リビングには畳の間やソファがあり洗濯物たたみ、パズル、本読み、テレビなど思い思いに楽しめる場、自立支援につながる共用空間になっている。ホール内の壁には季節ごとの絵を飾り生活感や季節感を取り入れている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファでTVを見たり、テーブルを囲み談笑したり、畳で一人でくつろいだりと、それぞれの場所で過ごしている。</p>		

鹿児島県 グループホームタンポポ福祉館 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>個々の好みによって使い慣れた物や写真を飾ったり、仏壇やタンス等を設置し、居心地のよい部屋作りをしている。</p>	<p>入居時、なじみの物品を持ち込んでもらえるよう話している。個々の好みによって仏壇やタンスなどを設置し、写真やお気に入りの小物などを飾った部屋作りになっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内部はすべてバリアフリー。すべての壁に手すりが設置。居室の入り口には名札や目印となる飾りをし、洗面所やトイレには張り紙で表示している。</p>	/	/

**V アウトカム項目**

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホームタンポポ福祉館 1ユニット

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホームタンポポ福祉館 1ユニット

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない